

2021年度

# 総会資料

とり戻そう元気な里山を  
みんなで広げるゆうきの里づくり



【環境整備集合写真】

地域の資源を守り活かそう！  
一人ひとりの活動で大きな輪になろう！



【農産物品評会受賞者】



【わらび苗づくり】

特定非営利活動法人  
ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

## 2021年度事業報告について

### 1 事業概況報告について

二本松市から指定管理を受けている「道の駅ふくしま東和（東和活性化センター）」をゆうきの里の活動の拠点として、里山の経済活性化のために「六次産業化の推進」「多様な交流の展開」「震災後の里山の再生・復興の取り組み活動」そして「地域の情報発信」等の活動をしてまいりました。

六次産業化の取り組みの一端である桑製品の自社製造については、自社による加工を開始してから6年目を迎えましたが、「桑の町東和」としてのブランド化にはまだ「道半ば」の状況にあります。

東日本大震災発生後から10年目を迎え、原発事故による放射性物質の影響は薄れ、農業の生産活動や生活への影響は少なくなったと感じられる年でありました。

しかし、2019年11月に発生した新型コロナウイルスは、世界中の人々の生活を一変させ、本年度の活動にも大きく影を落としました。

特に都市部の方との各種交流事業とイベントにおいては中止若しくは規模縮小での開催を余儀なくされました。

震災以降、販売する農産物の放射性物質の測定は欠くことのできないものと判断し、6つの約束事に加えて測定の継続を堅持してまいりましたが、10年が経過し、測定結果としても栽培ものについてはほとんどがNDであることから、今年度は会員1検体のみの測定としました。

あぶくま館店舗部門では、ブランド野菜「東和げんき野菜」等の直売所や福島市内の他店舗への販売促進を行いました。前述の通り新型コロナウイルスの影響により都市部での区民祭りや多様なイベントは中止となり、「東和げんき野菜」のPRと販売は厳しい状況でした。

販売促進にあたっては、基幹的農業従事者の高齢化等による農産物等出荷数量の減少にとまかない、仕入れの強化と新商品の開発に取り組みました。

新型コロナウイルスの影響により各種イベントが少なくなっている中、日本蜜蜂倶楽部の毎月8日開催の「蜂(ハチ)の日のイベント」など、当該施設で開催したイベントには、多くの来場者があり、人の流れの変化を感じることができました。

特産加工部門では、主力商品である桑茶の原料である「桑の葉」確保の観点からも桑茶製造を行いました。

なお、アイス部門のナチュレと食堂部門のみちくさ亭では販売を強化するために新商品、新メニューの開発に取り組みました。密を避ける状況もあり惣菜部門の売上げの増加傾向がみられました。

ゆうき産直部門では、生産拡大のため、種苗、堆肥購入費の一部助成をしました。また、野生のわらびの出荷制限がかかっていることから、栽培わらびの生産拡大を継続するため育苗し、ポット苗を希望者に販売いたしました。

交流定住部門においても新型コロナウイルスの影響により事業の開催に制限がありましたが、全国的な地方移住への流れもあり、大都市部のみでなく地方都市からの参加、家族連れのリピーターが見られました。

さらに恒例となっておりました人事院行政初任者の研修や教育旅行についても、今年度も中止となりました。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止による移動の自粛などによるイベントの制限など十分な活動はできない状況でした。

また、年度途中での事務局長の非常勤勤務、店長の退職に伴う交代があり、年度下半期からは「県内一魅力ある道の駅」を目指し、訪れる一人一人を大切にする行動と各部門のチームを含めた戦略会議の開催による従業員の積極的な店舗運営参加を促進した取り組みをスタートさせました。

管理受託施設である「道の駅ふくしま東和（東和活性化センター）」の適正な管理運営に努めるとともに、協議会が目指すべく地域活性化の目標達成のための拠点として活用を図ってきました。

総会の方針決定に基づく多様な各種事務・事業等について、行政機関をはじめ、多くの関係者のご支援と会員のご理解とご協力のもと、地域資源を活かした取り組みに努められたことに感謝申し上げます。

以上、事業の概況報告といたします。

## 2 三つの再生の取り組み報告について

### ・農地の再生

#### ①「東和げんき野菜」の普及

有機的栽培と自主基準管理による「東和げんき野菜」の自主基準をクリアした「東和げんき野菜」の認定シールの農産物を出荷しました。

#### ② 耕作放棄地の解消

耕作放棄地をなくすため、生産者会議等で生産拡大に向けた種苗等の斡旋等を行うとともに、種苗と堆肥に助成を行いました。

#### ③ 放射性物質の検査

農地と農産物の放射性物質の検査を行い、農産物への放射性物質の移行の有無の測定を行いました。

#### ④ 圃場の土壌診断

農作物出荷者の圃場の土壌診断により、施肥設計に努めました。

### ・山林の再生

森林の多面的機能等の理解を深めるための取り組みについてガーデン体験室を活用してのワークショップ開催について検討しました。

ただし、栽培わらびの生産拡大までには至りませんでした。

### ・コミュニティの再生

新型コロナウイルスの影響により生産者会議等の開催も少なくなる中、道の駅の環境整備などにより、会員相互のコミュニティを図りました。

## 3 委員会報告

### (1) 特産加工推進委員会

◆委員会方針 「桑の里づくりを目指し、桑事業（商品開発・製造・販売）の展開と六次産業化により特産の持続可能な体制づくりを進めます」

#### ◇重点実施事項

##### ①需要と供給のバランスの取れる生産体制について

・ジャム加工では、製造量を調整し在庫過多にならないようにしました。

- ・漬物加工では、遅霜の影響で梅の収穫量が少なくなったことで、販売量に見合った製造ができませんでした。
- ・桑では、販売の伸び悩みが続き数量を調整して集荷したが、在庫過多になってしまいました
- ②新規取引先の開拓と販路拡大について
  - ・新規取引先が数件増え販路を拡大することが出来ました。
- ③新商品の企画開発及び商品化について
  - ・新商品の考案が進まず、実施できませんでした。
- ④加工従事者の人材育成とスキルアップを図り、生産性の向上について
  - ・新たに数名の者に桑詰めなどの作業について教えることが出来ました。また、経験者が慣れてきたことにより、生産性の向上を図ることができました。
- ⑤HACCPの義務化に伴う衛生管理計画書の作成について
  - ・衛生管理計画書を作成し、計画に基づいて加工・製造をすることができました。

## (2) あぶくま館店舗委員会

- ◆委員会方針 「道の駅の魅力をアップさせて、集客の低下傾向に歯止めをかけます」  
「里山の直売所の魅力アップとげんき野菜を中心とする販売に努めます」

### ◇重点実施事項

#### 1. 商品力の向上

- (1) 商品集荷の体制を整えました。

依頼のあった生産者宅を訪問し野菜の集荷を行いました。

- (2) 旬商品の取り扱いを拡大しました。

果物の取り扱い増加

いちご・さくらんぼ・もも・なし・ぶどう・柿・りんご・みかんなど一年を通し販売を行いました。

- (3) 惣菜の商品開発を行いました。

- ① 春の行楽シーズンに合わせて軽食系の商品開発を行いました。

- ② 1日の製造量を金額ベースで10,000円までアップしました。

(昨年状況 8,600円)

- (4) みちくさ亭のメニュー開発を強化しました。

#### 2. サービスの強化

- (1) 盆、秋彼岸、春彼岸に「道の駅・ふくしま東和 花市」を開催しました。

- (2) 創業祭と収穫祭を実施しました。

- ① イベントの内容については、あぶくま館店舗委員会にタスクを結成し、決定していきました。

#### 3. コンプライアンスの順守

- (1) HACCP（衛生管理計画）の義務化に伴う衛生管理計画書の作成とそれに沿った衛生管理を進めました。

- (2) 労働法上不十分な点の解消を計画的に進めました。

- (3) 賞味期限設定の見直しを徹底しました。

#### 4. 運営力の向上

- (1) コロナ感染症対策を引続き実施しました。

- ① 新規の対策を積極的に導入しました。

(2) 施設内のクレンリネスを進めました。

① 年2回会員による環境整備を引続き実施しました。

② 年間の清掃計画をもとに施設内の美化に努めました。

(3) 発注の分担を明確にして発注精度の向上を目指しました。

### (3) ゆうき産直支援委員会

◆委員会方針 「ブランド野菜をお届けするため、『有機質肥料の施用』『土壌診断の励行』につとめ、品質向上・生産力アップにつながる技術指導と体制づくりを推進します」

#### ◇重点実施事項

##### ①土づくりと土壌診断

- ・「東和げんき野菜」の基本となる土づくりと、げんき堆肥の施用成果が分る診断を行いました。
- ・農産物出荷会員に対し「げんき堆肥」等購入費用の一部助成を行いました。
- ・ゆうき産直部会の有機質肥料・資材等の共同購入を行いました。

##### ②農産物の品質向上

- ・生産者会議等を通して栽培の技術指導と販売動向の情報提供を行いました。
- ・農産物の品質向上を図るため、収穫祭での農産物品評会を開催しましたが、直売所視察などはコロナ禍で実施できませんでした。

##### ③生産拡大に向けた取り組み

- ・農産物出荷会員に対し種苗の助成支援を行いました。
- ・野菜生産者の会員勧誘活動を展開しました。
- ・高齢化に伴う農産物の委託集荷を定着化させ、実施しました。

##### ④学校給食への食材提供を行いました。

### (4) 交流定住促進委員会

◆委員会方針 「東和の魅力をもろごと活かした『行ってみたい、また来たい、いつか住んでみたい』交流と教育旅行の推進を図ります」

今年度も年度当初から新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、あらゆる分野で活動が中止或いは縮小されることとなりました。そのことから今年度事業に掲げていた方針については極めて限定的なものとなってしまいました。

#### ◇重点実施事項

##### ①新規就農と移住相談及び自立支援と里山暮らしの推進

6月27日 新農業人フェア（東京国際フォーラム）相談者8名

9月12日 新農業人フェア（コロナによりキャンセル）

10月17日 ふるさと回帰フェア（東京国際フォーラム）相談者8名

12月12日 ふくしま農業人フェア（卸町アクティ）相談者4名

1月29日 新農業人フェア（コロナによりキャンセル）

##### ②移住・定住等の支援

新規就農希望者や移住希望者を対象に田舎暮らしモニターツアーを2回開催しました。

11月20日～21日 モニターツアー 参加者5名

3月25日～26日 モニターツアー 参加者3名

また、新規就農者研修支援事業による受入者は2名でした。4月からの自立に向

けた具体的な技術や情報提供を行いました。

### ③地域資源を生かした多様な交流の展開と情報発信

新型コロナウイルスの影響により、都市との交流事業は4月の東京東和会の総会や荒川川の手まつり、10月の墨田区民まつりなどほとんどが中止となりました。恒例となっていた人事院の初任者研修や東京都荒川区の中学校の受入れなども中止となりました。

## (5) ひと・まち・環境づくり委員会

◆委員会方針 「生涯現役で暮らせる健康づくりと環境に配慮した里山の暮らしを活かした『ひとと自然に優しいまちづくり』を推進します」

### ◇重点実施事項

#### ①健康づくりの意識喚起と実践

- ・二本松市の毎月の健康相談会が今年度より廃止となったが、二本松市と明治安田生命の協力を得て収穫祭のタイミングで健康相談会を開催しました。参加者は42名でした。
- ・1月19日に今年度の健康増進事業をJA東和支店の協力のもと開催しました。
- ・10月30日に健康講演会として、県医師会の六角裕一氏を講師に迎え「動脈硬化と心疾患」の話をさせていただきました。参加者は26名でした。
- ・始業前のラジオ体操の取組みは職員の参加者が増え意識が上がりました。

#### ②農村文化や生活文化の伝承と魅力ある資源の活用

農村文化等の掘り起こしや地域の価値ある資源の活用のための教室を新型コロナウイルス感染防止対策を行い開催しました。各種教室開催の周知としてホームページや施設内等に早めに情報発信を行いました。

- ・11月13日にはあんぼ柿づくり教室を開催し、18名の参加がありました。
- ・12月18日にははしめ縄づくり教室を開催し、14名の参加がありました。
- ・1月30日にはだんごさし体験を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染が市内でも増加してきたため中止としました。

#### ③生きがい支援と新しい文化の創造の環境づくり

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止として、創業祭や収穫祭を規模縮小しての開催となったため発表の場を提供できませんでした。

#### ④フリーマーケットの開催

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止として、創業祭や収穫祭を規模縮小しての開催となったため開催できませんでした。

## 4 施設指定管理

◆方針 「施設の適正な管理と情報発信による地域の活性化を図り、来館者や利用者の立場になって、施設的环境美化と安全性の確保に努めます」

本年度は指定管理期間5カ年の3年目となっています。

道の駅は地域の情報発信や交流拠点、経済活性化のためであること、また、活性化センターは地域の農林業の振興や地域社会の活力の拠点であることから、それぞれの機能が発揮できるよう管理に努めました。

本施設の基盤的な部分や備品の経年劣化による修繕について市と協議の上行ってきましたが、本年度は施設の大規模改修について要望書を市長へ提出しました。

会員による環境整備を6月と10月に行い、創業祭や収穫祭に合わせて、役職員による草刈り等の環境美化を行いました。

コロナの影響により対面形式の研修などが少なくなったため、利用のあり方を検討しました。本年は利用申し込みの無い時期のガーデン体験室オープン化を行い来客者の館内滞留時間の延長と施設の周知を図りました。

#### 施設の使用状況

場 所	利用回数	利用人数
会議室	118回	1,148名
ガーデン室	52回	718名
調理室	364回	736名
加工室	52回	718名
駐車場	108回	3,176名

### 5 災害復興プログラムの継続（2021年度の取り組み）

#### ①農産物等の測定による安全性の確認（放射性物質の摂取回避）

- ・農産物の放射性物質移行防止のための栽培技術の情報収集を行いました。
- ・放射性物質測定を継続しました。
- ・原発事故から10年経過したことを踏まえ、専門家の意見を聞きながら今後の対応を検討しました。

### 6 各種補助事業の取組

#### ◇ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会事業主体分（連携等も含む）

- ①地域おこし協力隊員活動支援業務（活動支援、住環境整備、研修）・・・二本松市
- ②野菜生産出荷安定事業（そ菜種苗購入助成事業）・・・・・・・・二本松市
- ③移住定住推進事業（PR活動、モニターツアー等）・・・・・・・・二本松市
- ④新規就農相談業務委託事業（相談業務等）・・・・・・・・二本松市
- ⑤新規就農者研修支援事業（新規就農者育成）・・・・・・・・二本松市

#### ◇東和地域グリーンツーリズム推進協議会事業主体分

- グリーンツーリズム推進事業（交流・定住促進）・・・・・・・・二本松観光連盟  
（東和地域グリーンツーリズム推進協議会の事務支援を行う）

※地域づくり団体支援事業（実行委員会事務支援等）の「賑わいづくり支援事業（夏祭り）」と「あぶくまふるさとウォーク事業」につきましては、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

## 貸借対照表

(単位：円)

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

令和4年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 22,004,240】	【流 動 負 債】	【 19,360,690】
現金及び預金	16,037,323	買掛金	2,026,154
売掛金	1,707,514	未払金	5,898,345
製 品	2,046,260	前受金	2,931,000
原 材 料	2,193,143	預り金	8,433,191
立替金	20,000	納税充当金	72,000
【固 定 資 産】	【 8,681,489】	【固 定 負 債】	【 7,104,000】
(有形固定資産)	( 8,671,489)	長期借入金	7,104,000
建 物	5,275,336	負債の部計	26,464,690
構 築 物	34,296	純資産の部	
機 械 装 置	3,361,849	【株 主 資 本】	【 4,221,039】
車 両 運 搬 具	2	[利 益 剰 余 金]	[ 4,221,039]
工 具 ・ 器 具	6	(その他利益剰余金)	( 4,221,039)
(投資その他の資産)	( 10,000)	繰越利益剰余金	4,221,039
出 資 金	10,000	(うち当期純損失)	( 4,214,869)
		純資産の部計	4,221,039
資 産 の 部 計	30,685,729	負債・純資産の部計	30,685,729



# 損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 3年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 4年 3月31日

科 目	金 額	
【売 上 高】		
会 費 収 入	628,103	
管 理 業 務 委 託 料	11,615,456	
売 上 高	37,862,625	
施 設 使 用 料 収 入	6,132,401	
手 数 料 収 入	11,336,956	
委 託 金 収 入	4,279,066	71,854,607
【売 上 原 価】		
期 首 商 品 棚 卸 高	1,510,677	
仕 入 高	9,413,630	
当 期 製 品 製 造 原 価	17,499,676	
合 計	28,423,983	
期 末 商 品 棚 卸 高	2,046,260	26,377,723
売 上 総 利 益		45,476,884
【販 売 費 及 び 一 般 管 理 費】		50,113,990
営 業 損 失		4,637,106
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	97	
雑 収 入	621,856	621,953
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息	127,716	127,716
経 常 損 失		4,142,869
税 引 前 当 期 純 損 失		4,142,869
法 人 税 ・ 住 民 税 ・ 事 業 税		72,000
当 期 純 損 失		4,214,869

# 販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 3年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 4年 3月31日

科 目	金	額
役 員 報 酬	960,000	
給 料 手 当	19,848,693	
法 定 福 利 費	2,156,213	
福 利 厚 生 費	83,813	
謝 礼 費	56,411	
通 信 費	647,090	
事 業 費	4,325,458	
荷 造 運 賃	83,151	
水 道 光 熱 費	5,467,377	
販 売 促 進 費	1,120,178	
広 告 宣 伝 費	332,106	
接 待 交 際 費	30,380	
研 修 費	12,000	
会 議 費	538,798	
消 耗 品 費	2,516,225	
新 聞 図 書 費	100,620	
修 繕 費	126,000	
地 代 家 賃	1,475,991	
車 両 関 係 費	873,281	
保 險 料	357,798	
手 数 料	536,176	
減 価 償 却 費	2,091,470	
委 託 料	2,810,303	
租 税 公 課	63,911	
環 境 整 備 費	96,089	
リ ー ス 料	2,819,273	
支 払 手 数 料	448,810	
諸 会 費	136,375	
合 計		50,113,990

# 製造原価報告書

(単位：円)

自 令和 3年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 4年 3月 31日

科 目	金 額	
【材 料 費】		
期首材料棚卸高	3,877,670	
材料仕入高	6,267,212	
合 計	10,144,882	
期末材料棚卸高	4,385,093	5,759,789
【労 務 費】		
給料手当	8,176,088	8,176,088
【外注加工費】		352,852
【製 造 経 費】		
動力光熱費	2,015,115	
消耗品費	1,161,832	
修 繕 費	34,000	3,210,947
当期総製造費用		17,499,676
合 計		17,499,676
当期製品製造原価		17,499,676

## 会 計 監 査 報 告

令和3年4月1日から令和4年3月31日までの、2021年度における業務執行及び財産状況について、令和4年5月9日に監査を執行しました。

その結果について、以下のとおり報告いたします。

### 記

#### 1. 監査の概要

理事長、副理事長及び専務、常務立会いのもと、事業概況の報告を受け、貸借対照表、損益計算書、内訳書及び関係帳票の閲覧により監査を実施しました。各事業等の事業推進状況等については聴き取り方式により実態の把握を行いました。

#### 2. 監査の結果

総会の議決に基づき、事業方針に沿った取り組みが推進されたことを確認しました。

また、各種業務・事業にかかる関係書類・会計簿等の帳票を監査した結果、適正に執行されていたことを認めましたので報告いたします。

なお、本年度の営業損益がマイナスとなったことから、売り上げの回復に向けた取り組みと並行し、重点取組として桑製品の拡販推進及び販売価格の見直し等を検討されるよう意見として述べさせていただきます。

令和4年5月19日

特定非営利活動法人

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

監 事 奥 山 猛

監 事 伊 藤 健 朗

監 事 大 槻 貞 男

## 2022年度事業計画（案）について

### 1 基本理念

里山の恵みと人の輝くふるさとづくりを目指します。

～きみの自立、ぼくの自立がふるさとの自立～

### 2 基本方針

- ①『地域資源を生かしたもののづくりと多様な交流の展開』
- ②有機的農業の推進と里山資源の六次産業化による地域経済の活性化
- ③仲間づくりと地域コミュニティによる笑顔多い喜びの里づくり
- ④自然豊かな里山の暮らしを活かしたひとの往来と出逢いの場づくり
- ⑤土づくりと新たな作物の導入による「東和げんき野菜」の生産安定

#### ◆三つの再生の取り組み

##### ①コミュニティの再生

高齢者から子孫への地域をつなぐ取り組みと、いきいき暮らせる地域づくり  
多様な交流の展開による地域の活性化と新規就農者や移住者の支援

##### ②農地の再生

少量多品種作付による耕作農地の維持と土づくりでげんき野菜等の生産

##### ③山林の再生

栽培ワラビの生産拡大・普及

森林の保全と出荷制限されている農林産物の出荷に向けた情報収集

### 3 本年度の情勢と年度計画への反映

新型コロナによる移動の自粛などによるイベントの制限は徐々に落ち着きを見せはじめましたが、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化など、まだ経済における不安は続いております。

国は農業分野の成長戦略の一環として、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組と脱炭素などの環境負荷軽減の考えを示しました。そこでは2050年までに農林水産業のCO2排出量⑩実現のために、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ヘクタール）に拡大することが盛り込まれています。

また、以前から推進していた国内マーケットの縮小に伴う農産物の海外輸出拡大や、生産から消費までの6次産業化による地産地消の推進、農家民泊など地方の魅力を活かした交流促進、農業のスマート化を推進しています。

これらの状況を踏まえ本年度事業を推進します。

#### (1) 農業の6次産業化

酒米（東京農工大が開発し、東和地域で試作した酒米）の6次産業化を推進します。

#### (2) 「里山の恵み」を活かした商品開発

農家民泊、農業体験、ワークショップによる事業を推進します。

#### (3) 営利部門における収益の拡大

従業員のスキルアップの向上を図ります。

(4) 農業の有機 JAS 推進

当協議会においても説明会を開催し取り組みを図ります。

(5) 農産物の輸出

桑の葉パウダーの輸出に向けて、桑及び加工施設の有機 JAS 認定取得を推進します。

4 指定管理者としての「県内一魅力ある道の駅」づくり

道の駅「ふくしま東和」では2025年度に「県内一魅力ある道の駅」となることを目標に掲げ、「人」「食」「物」「外」の力を使い、「特産加工部門」「あぶくま館部門」「食堂ソフト部門」の強化を推進し、活力の源である収益を伸ばすことを目標とします。

これらの実現と、当協議会の目的である「里山の恵みを活かした地域資源環型のふるさとづくりを推進する拠点として地域活性化を推進し指定管理者としての活動を進めてまいります。

5 各委員会の計画

(1) 特産加工推進委員会

◆委員会方針 「桑の里づくりを目指し、桑事業（商品開発・製造・販売）の展開と六次産業化により、特産の持続可能な体制づくりを進めます」

◇重点実施事項

- ①桑生産者を交え JAS 取得に向けた勉強会の開催
- ②新規取引先の開拓に努めた販路拡大
- ③新商品の企画開発と商品化
- ④加工従事者の人材育成及び生産能力の向上

(2) あぶくま館店舗委員会

◆委員会方針 「里山の魅力や特産品を生かし“県内一魅力ある道の駅”を目指します」

◇重点実施事項

- ①東和の食材を使った食へのこだわりと話題性のある食づくり
  - ・惣菜、仕出し事業を強化した売上の向上
  - ・手作りジェラートショップ“ナチュレ”での毎月新メニューの販売
- ②東和ならではの特産品や農産物にこだわった PR や販売活動
  - ・桑茶の販売拡大、パウダーを使ったオリジナル商品の開発・販売
  - ・東和げんき野菜の生産者の拡大と販売力強化
- ③ガーデン体験加工室を有効に活用した月1回のイベント、ワークショップの開催

(3) ゆうき産直支援委員会

◆委員会方針 「ブランド野菜をお届けするため、『有機質肥料の施用』『土壌診断の励行』につとめ、品質向上・生産力アップにつながる技術指導と体制づくりを推進します」

◇重点実施事項

- ①土づくりと土壌診断
  - ・「東和げんき野菜」の基本となる土づくりと、げんき堆肥の施用成果が分る診断

#### 体制づくり

- ・生産者の圃場の巡回と栽培指導、土壌検査の実施
- ・農産物出荷会員に対し「げんき堆肥」等購入費用の一部助成
- ・ゆうき産直部会の有機質肥料・資材等の共同購入の推進

#### ②農産物の品質向上

- ・生産者会議等での栽培の技術指導と販売動向の情報提供
- ・収穫祭での農産物品評会の開催や直売所視察などの研鑽による農産物の品質向上

#### ③生産拡大に向けた取り組み

- ・農産物出荷会員に対する種苗の助成支援
- ・野菜生産者の会員勧誘活動の展開
- ・高齢化に伴う農産物の委託集荷のを定着化

#### ④学校給食への食材提供の推進

#### ⑤わらび栽培事業の推進

### (4) 交流定住促進委員会

- ◆委員会方針 「東和の魅力をまるごと活かした『行ってみたい、また来てみたい、いつか住んでみたい』交流と教育旅行の推進を図ります」

#### ◇重点実施事項

#### ①新規就農と移住相談及び自立支援と里山暮らしの推進

- ・就農や移住者の相談窓口の充実

#### ②移住・定住等の支援

- ・移住定住の誘導のための空き家や遊休農地等の情報収集と移住希望者への情報提供
- ・多様なツールの活用による地域情報の発信

#### ③地域資源を生かした多様な交流の展開と情報発信

- ・農業体験等の組み合わせによる田舎暮らしモニターツアーや教育旅行の推進と交流人口の増大
- ・都市部での開催情報の収集と参加機会を得て市民等との交流
- ・県内外の大学・企業等の研修・視察の受け入れやイベントの参加による地域間、多世代間など多様な交流の促進
- ・地域の自然、歴史、産業の資源等を組み合わせた多様なツアーの企画立案と実践
- ・受け入れ体制の充実のためのコーディネーターやインストラクターの育成

#### ④東和地域グリーンツーリズム推進協議会との連携

- ・滞在型交流促進のため、農家民宿や農業体験等の拡大に向けた支援

#### ⑤教育旅行の推進

- ・農村環境や地域資源を活用した教育旅行の推進

### (5) ひと・まち・環境づくり委員会

- ◆委員会方針 「生涯現役で暮らせる健康づくりと環境に配慮した里山の暮らしを活かした『ひとと自然に優しいまちづくり』を推進します」

#### ◇重点実施事項

#### ①健康づくりの意識喚起と実践

- ・健康相談の機会の確保のため、市と連携し健康相談会の開催
- ・生涯健康で暮らすため、健康増進事業や健康講演会などの開催

- ②農村文化や生活文化の伝承と魅力ある資源の活用
  - ・農村文化等の掘り起こしと地域資源の活用
  - ・干し柿づくりやしめ縄飾りづくりなどの教室の開催とだんごさし行事の伝承
  - ・習い事や芸能の発表の場の提供と新しい文化の創造と生きがいつくりの応援
- ④フリーマーケットの開催
  - ・もったいない意識の実践として、出し手と引き受け手にメリットのあるフリーマーケットのイベントに合わせた開催

## 5 施設指定管理

- ◆方針 「施設の適正な管理と情報発信による地域の活性化を図り、来館者や利用者の立場になって、施設的环境美化と安全性の確保に努めます」
  - ・道の駅及び活性化センターの目的に沿った施設の利用促進
  - ・施設の快適な環境保持のため定期的な点検と駅周辺の美化活動
  - ・地域の情報発信機能の強化策とした重点月に絞ったイベントの企画と情報提供
  - ・施設の適正かつ円滑な管理運営と交流人口の増大
  - ・施設利活用向上のため農産物の加工、栽培技術指導会、健康講演会等の開催
  - ・施設・設備・機器等の点検と利用者の利便性と事故の未然防止
  - ・有事に即対応できる体制づくりのための防犯訓練と避難訓練や消防訓練の実施
  - ・事件・事故・火災の発生防止
  - ・イベント等の開催による施設利用の拡大と会員の生きがいつくり、地域コミュニティの増進の定着
  - ・来館者へのサービス向上と緊急時に対処するための職員の教育と訓練の徹底
  - ・当協議会の取組や災害復興プログラムなどを活かした視察・研修の積極的な受け入れと施設の利用頻度の向上
  - ・道の駅のさらなる利便性と利活用を図るため、施設の改修・整備の検討や備品の更新等についての市との協議
  - ・喫煙所での喫煙の誘導

## 6 災害復興プログラムの継続（2022年度の取り組み）

- ①会員の風評被害等による損害賠償請求の支援
  - ・震災後から実施している農家の再生産確保支援のため東京電力株式会社に対する損害賠償請求のための個別相談会を設定と会場の確保とデータ作成等の支援
- ②各大学や企業への調査研究協力
  - ・大学、関係機関によるプロジェクト連携事業への調査等協力と情報公開
  - ・農産物や耕地等の継続した放射性物質測定の研究等への協力
  - ・災害復興プログラムの10年間の調査・研究の成果の活用
- ③農産物等の測定による安全性の確認（放射性物質の摂取防止）
  - ・農産物の放射性物質移行防止のための栽培技術の情報収集
  - ・放射性物質残留測定の実施
- ④農産物の生産拡大と販売出荷支援（風評被害対策）
  - ・「東和げんき野菜」の出荷先チャンネルの拡大
- ⑤会員と家族の健康を守る取り組み
  - ・正しい知識と理解を得る健康講演会や相談会等の開催
- ⑥調査研究の分析と活用検討



- ・放射能にかかる各種の調査・研究の分析と活用の検討

## 7 各補助事業の取組（2022年度）

令和4年度において、下記の補助事業に取り組むこととします。

年度途中で大きな負担を伴う補助事業に取り組む場合は、理事会において協議することとします。なお、記載した事業が不採択の場合は事業への取り組みは行わないこととします。

### ◇ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会事業主体分（連携等も含む）

- ①地域おこし協力隊員活動支援業務（グリーンツーリズム協議会支援）・・・二本松市
- ②野菜生産出荷安定事業（そ菜種苗購入助成事業）・・・・・・・・二本松市
- ③移住コーディネート業務（コーディネート業務）・・・・・・・・二本松市
- ④新規就農者相談業務委託（相談業務）・・・・・・・・二本松市
- ⑤新規就農者研修支援事業（新規就農者育成）・・・・・・・・二本松市

### ◇東和地域グリーンツーリズム推進協議会事業主体分（事務・活動支援を行う）

- ①グリーンツーリズム推進事業（交流・定住促進）・・・・・・・・二本松市観光連盟

### ◇他団体支援（事務・活動支援を行う）

- ①あぶくまふるさとウォーク事業（地域資源の活用）・・・・・・・・二本松市
- ②賑わいづくり支援事業（夏まつり）・・・・・・・・二本松市

## 〈2022年度 年間予定表〉

月	協議会	ものづくり企画部	まちづくり企画部
4	22 消防訓練	29 木幡マルシェ	
5	9 決算監査 19 合同会議・理事会 28 会員総会（書面）		
6	10 会報発行 19 環境整備		
7		3 木幡マルシェ 16～18 大創業祭	23 新・農業人フェア
8	10 環境整備		田舎暮らしモニターツアー
9		4 東和ふるさと祭り	25 ふるさと回帰フェア
10	16 上期監査 環境整備 29～30 収穫大感謝祭	1～2 墨田区民祭り	23 新・農業人フェア
11			田舎暮らしモニターツアー 13 あんぽ柿づくり教室
12		年末感謝セール	18 しめ縄づくり教室
1	3 会報発行 会員新年会 消防訓練	年始初売り	14 新・農業人フェア 田舎暮らしモニターツアー
2			6 会員健康増進事業 15 だんごさし体験
3			
共 通 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者会議（基本毎月）</li> <li>・合同会議（基本毎月）</li> <li>・理事会（都度）</li> <li>・会員広報／年2回発行（6月、1月）</li> </ul>		